

収穫は、着果標識により適期に行う。

3 施肥

	施肥量 (kg/10a)		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
全肥	20	16	15

- ① リン酸吸収係数の高い圃場では、別にリン酸を施す。
- ② 果菜類の連作圃場では、土壌分析を行い、施肥量を加減する。

4 定植

(1) 定植時期

本葉 5 ～ 6 枚で、8 月中下旬～ 9 月下旬頃に定植にする。気温が高いので、定植は夕方行い、活着促進を図るため株元に十分灌水する。

(2) 栽植密度

畦幅 2.5 ～ 2.7m、株間 45 ～ 50cm の 3 本仕立てで、800 株/10a を目安とする。

5 定植後の管理

(1) 温度管理

定植後は十分換気し、できるだけ高温にならないように努める。

(2) 活着促進

定植後 2 ～ 3 日間は株もと付近に十分灌水し、しおれないように管理する。活着までは寒冷紗等により遮光する。

(3) 整枝と誘引

整枝は子蔓 3 本仕立てとする。不要なつるは早めに除去し、子つるが 70 ～ 80cm になったら、オールバック誘引を行い、つる先を揃える。

6 交配期の管理

着果節位は、18 節前後の 3 番果を目標とする。着果確認後すぐに十分な灌水を行い、果実肥大を促進する。

7 成熟期から収穫期の管理

温度管理は日中 26 ～ 28 ℃、最低気温 13 ℃を目標に行う。

収穫の 10 日前までには、3 回程度玉直しを行う。